

希望の船

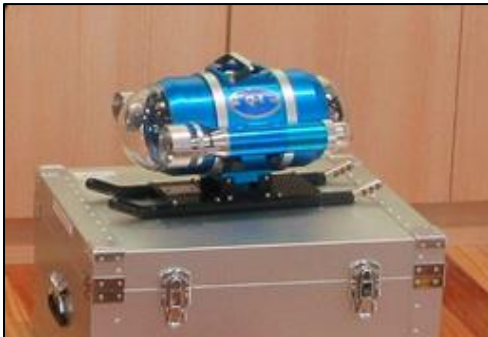
We love BIWAKO

「みずうみに学んで世界の明日をひらく人」

滋賀県立びわ湖フローティングスクール
〒520-0047 大津市浜大津5丁目1番7号
<https://uminoko.jp/>

「うみのこ」での新しい学習2

【所長 小野澤 稔香】



今回も、新しい「うみのこ」での新しい学習の様子を紹介します。まずは、「水中ロボットカメラ」による「湖底の観察」です。これまでから、びわ湖の水についての学習はしてきましたが、湖底の様子までは観察することは難しいことでした。新船には、自走式の「水中ロボットカメラ」が整備されました。停泊港での、びわ湖学習時に甲板から水中カメラを下ろし、コントローラーで操縦すると水中に潜っていきます。水中での映像は、多目的室や学習室でリアルタイムで見ることができます。貝がいくつも重なっている様子や、貝が湖底を移動した跡が見えたり、カメラの前を魚が横切ったりします。簡単に見ることのできない場所を見るのは、とても興味をそそるものです。まばたきするのも忘れて映像を見つめる子どもたちからは、時折大きな歓声が起こります。映像は録画しておき、悪天候時や航行中にビデオで観察することもできます。今年度は、港に停泊中のみカメラを下ろしていましたが、来年度は、竹生島や沖の白石近くで「うみのこ」を停船させ、数十メートルの深さまでカメラ

を沈めてみたいと考え準備を進めています。



次に、「デジタル水質測定器」をご紹介します。この測定器を使うと、湖水に溶けている酸素の濃度を簡単に測ることができます。びわ湖からくみ上げた湖水にセンサーを入れると、簡単に溶存酸素(mg/L)が表示されます。魚を入れた水槽で測定すると、数値が見えるうちに下がっていきます。水の中で、魚がえらから酸素を取り入れていることが分かるのです。メダカなどの水槽にブクブクと空気を送り込んでいる理由に納得できる瞬間です。学習はこれで終わらず、「びわ湖の酸素はなぜ無くならないのかな?」「プラ

ンクトンも酸素を使っているのかな?」と疑問が次々に生まれます。植物プランクトンや水草等の存在について学びは広がっていくことでしょう。

このように、2代目「うみのこ」には、多くの新しい学習備品が整備されました。また、株式会社空兵衛造船所様から多数の学習用パネルを、株式会社京進様からは多目的室の電子黒板・プロジェクターを、農林中央金庫大阪支店様より折りたたみ座卓24台をご寄贈いただきました。心より感謝申し上げます。子どもたちのより深い学びのため、大切に活用させていただきます。

